

Q&A

Q		A
環境評価	1	ディスポーザ排水処理システムの炭酸ガス発生量はどのくらいか 《マンション1戸当たりの年間発生量》 建設段階：8.126 kg-CO ₂ /戸・年 運用段階：128.25 kg-CO ₂ /戸・年
	2	どのような条件で炭酸ガス発生量を算出したのか ・ディスポーザは5社、排水処理槽は3社、フロアは4社の平均で算出 ・製造段階：ディスポーザ本体、排水処理槽、配管、輸送、施工 ・運用段階：電力、使用水量、排水処理槽定期保守・点検、排水処理槽清掃、水質検査、配管清掃で算出
	3	耐用年数の設定はどうしたのか ディスポーザ本体：7年、フロア：4年、ポンプ：4年、配電盤：12年 トラップ：10年、そのほかの材料：30年
	4	ディスポーザによるごみ減量効果はどのくらいか 可燃ゴミでの生ごみ重量は33%であるので、可燃ごみの3割程度を減量する。（平成12年度版環境白書より）
ディスポーザ排水処理システム全般	5	ディスポーザ排水処理システムとは キッチンに設置したディスポーザで生ごみを破碎し、専用配管で敷地内に設置した排水処理槽まで排水し、所定水質に浄化して下水道や高度処理型浄化槽に放流。
	6	ディスポーザ排水処理システムはいつごろから設置されたのか 1998年から設置が始まった。
	7	ディスポーザ排水処理システムはどの程度設置されたのか 2018年度で累計70万戸の住戸に設置。
	8	ディスポーザ排水処理システム設置での特徴は？ 一般に新築マンションに限られ、首都圏が70%、近畿圏が20%、中京圏が4%を占め大都市中心、大規模マンションや高級マンションを中心に設置される傾向有。
	9	価格はどのくらい 一般に新築マンションへの設置に限定されるため、システム価格はマンション分譲価格等に含まれる
	10	使用者の評価はどうか 住宅雑誌（SUMO）のマンション設備の満足度評価で、ここ数年ベストテンに入るほど高評価。
	11	戸建て住宅でも排水処理槽が必要なのか 大部分の地方公共団体では排水処理槽が必要。地方公共団体が排水処理槽無で許可しているのは、全国で30か所程度。

Q		A	
デ ィ ス ポ ー ザ 排 水 処 理 シ ス テ ム	12	マンションに必ずデスポーザ排水処理システムを設置している地方公共団体はあるのか	関東では鎌倉市が必要といわれているが、事前に地方公共団体への確認が必要。
	13	デスポーザ排水処理システムの設置を禁止している地方公共団体はあるのか	逗子市は当協会が扱っているデスポーザ排水処理システムを禁止。直接投入型デスポーザ（処理槽不要）を実施している地方公共団体も禁止の可能性があるので、事前に地方公共団体への確認が必要。
	14	デスポーザ排水処理システムの設置には役所への届け出が必要か	設置する地方公共団体への届け出が必要。必ず事前に該当地方公共団体に相談が必要。
	15	認可などはあるのか	（公社）日本下水道協会の規格適合製品認証が必要。
	16	規格適合製品認証とは	（公社）日本下水道協会が実施している認証制度、詳細は下水道協会の確認必要
	17	排水設備とは	下水道法第 10 条の公共下水道に排水を流すための設備、指定工事店による施工が必要。詳細は地方公共団体への確認必要。
	18	専用排水管の管内清掃を行う必要があるのか	当協会の「デスポーザ排水処理システム配管設計施工ガイドライン」では、1 年 1 回以上の管洗浄が必要としている。
	デ ィ ス ポ ー ザ	19	デスポーどうやって生ごみを砕くのか（刃こぼれしない？）
20		デスポーザは生ごみであればすべてのものが破碎できるのか	一般に、すりつぶしにくい「かたい種」や「繊維の強いもの」、「生皮」、「大きな生ごみ」等は砕けない。詳細は各メーカーでの確認が必要。
21		デスポーザは何年くらいで交換になるのか	当協会では 7 年を目安に交換を推奨。経済産業省ではデスポーザのような電気製品を 10 年で交換することを推奨。
22		デスポーザはどんなキッチンにも設置できるのか	一般に直径 180 mm の円形排水口付きステンレス製シンクで、所定のデスポーザ設置スペース、コンセント、排水管、給水管があることが必要。詳細はメーカーへの確認必要。
23		大きな音がするのでは？	骨など硬い生ごみを砕くと大きな音が発生するが、マンション用に騒音対策が施されている。隣家や下階の居住者からの騒音クレームは、当協会に入っていない。
24		価格はどのくらいか	一般に新築マンションへの設置に限定されるため、システム価格はマンション分譲価格等に含まれる（買換えの場合は No38 参照）
25		デスポーザの重量はどのくらい	概略 4~10kg 程度。製品で異なるので、メーカー確認が必要。
26		キッチンシンクはデスポーザの重量や振動に耐えられるのか	現在まで 70 万戸の住宅でデスポーザが使用されているが、キッチンシンクへの影響についてのクレームは、当協会に入っていない。

Q		A
ディ ス ポ ー ザ	27	ディスポーザ本体の電気代や水道代はどの程度かかるのか 電気代の目安：4~9 円/月程度（ワット数は 5 社製品の平均値） （294W、使用時間 1.5~3 分/日、19.88 円/kWh 東京電力より） 水道代の目安：80~170 円/月程度 （8L/分、使用時間 1.5~3 分/日、0.24 円/L 東京都節水量より） ただし、食器等の洗いの利用により削減可能
	28	ディスポーザの維持管理（定期メンテナンス）は必要か 基本的にメンテナンスフリー製品。週に一度角氷を砕いてディスポーザ内のくずを流すことや、週に 2~3 度洗い桶や鍋などの水を一気に流すことを推奨。詳細は各メーカーでの確認必要。
排 水 処 理 槽	29	排水処理槽とは？ 専用排水管で流入する台所とディスポーザ排水を、処理槽内の水中微生物で所定の水質まで浄化し、下水道に負担をかけずに放流。
	30	排水処理槽の大きさはどのくらい 各メーカーでの確認が必要。イメージは、100 戸マンションで駐車場 2 台分程度。
	31	排水処理槽は定期メンテナンスが必要なのか 排水処理槽の清掃や処理状態の確認、水質分析等の定期的なメンテナンスが必要。詳細は各メーカーでの確認が必要。
	32	メンテナンスはどの業者でもできるのか 法律的な制約がないが、各メーカーによる定期講習会を実施している当協会の登録業者を推奨。
	33	浄化槽とは何がちがう？ 浄化槽は家庭の全排水を浄化するが、ディスポーザ排水処理槽はディスポーザ付きキッチンの排水のみ浄化する。法律での扱いも異なる。
	34	排水処理槽はどの程度使えるのか 排水処理槽本体のほかにフロアやポンプ、制御盤等があり、各々によって耐用年数が異なる。詳細は各メーカーへの確認が必要。
	35	汚泥は発生するのか 汚泥は発生する。ただ、排水処理槽への流入負荷が小さいと発生量が少なくなり、頻度も低減。当協会が稼働物件の排水をスポット的に採取した流入負荷は、いずれも設計値よりも小さな値で、学会等に報告済。
直 投 式 デ ィ ス ポ ー ザ	36	ディスポーザの設置許可はどこが出しているのか 下水道管理者である地方公共団体の下水道部門で判断。
	37	直投ディスポーザはどの程度実施されているのか 主に全国で約 30 か所の中規模以下の地方自治体で実施（当協会 HP に掲載）。個別には地方公共団体への確認必要。
	38	インターネットで購入できるのでは？ 電気用品の認証を取得すれば販売可能。設置には地方公共団体の届け出や指定工事店施工が必要なので、確認が必要。
	39	価格はどの程度 工事費込みで 14~19 万円（農林水産省ホームページより）
	40	補助金はあるのか 地方公共団体によって、補助金制度を設けている。詳細は地方公共団体に確認必要

注)

1. デスポーザ排水処理システムでのデスポーザ排水管については、当協会の「配管設計施工ガイドライン」をご確認願います。
2. 直接投入型デスポーザについては当協会の「直接投入型デスポーザエリア向け デスポーザガイドライン（案）」をご確認願います。

変更履歴

項目	日付
案作成	2019年11月26日
修正	2019年12月11日
修正	2020年10月8日